

農地法の許可申請受付〆切日は毎月10日です。

潮来農委だより

第 51 号

発行者 潮来市農業委員会

編集者 広報委員会

TEL 63-1111

内線 271・273



(しめ縄 宝船・ごぼう締め)

氏名 担当地区

大津 賢美 (水原3区、釜谷築地) 草野登美雄 (下田)

橋本 秀男 (清水) 小田倉善治 (東・西区)

郡司 勝美 (大賀、大生) 山口 幸男 (牛堀)

小沼 俣伸 (水原1・2区) 森内 和夫 (堀之内、茂木)

辻 慶壽 (芝宿・横須賀・台上戸) 額賀藤重郎 (徳島、福島、米島)

橋本きくい (日の出) 久保庭武彦 (洲崎、前川)

吉川 光一 (須賀、曲松、小泉) 宮内 章 (宿、古宿、赤須)

鶴田 学 (潮来、あやめ) 薄井 榮治 (永山)

笹本 孝之 (宮前) 兼原 昭一 (十番、十四番)

柳原 昭男 (新宮、古高、貝塚)

秋永 三男 (大洲、辻、江寺)

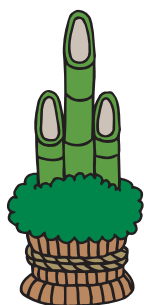
潮来市農業委員会

謹賀新年

今年もよろしく
お願いいたします。



(正月用松 出荷の準備)



新春対談 2009



潮来市長 松田千春 潮来市農業委員会会長 兼原昭一

平成21年も幕を開け、新しい年がスタートしました。新春対談として、松田千春市長とともに農政を熱く語ります。

松田市長 明けましておめでとうございませう。

昨年、食品偽装問題や不適正表示問題で揺れた一年でした。本年は、農家の皆様にとりまして、明るい一年でありますようお願い申し上げます。

兼原会長 本日もよろしくお願いいたします。

松田市長 エコ農業は、私の公約でもあり、進めることは非常に大切です。「水郷」「あやめ」という潮来の特徴を農業にも活かして、農業や化学肥料に頼り過ぎず、環境への負荷をかけない農業は、消費者が求めているものであり、本市も早急に茨城県へ、エコ農業開始地区の申請を提出して行きたいと考えています。

兼原会長 農業の振興には、農産物の販路拡大も大きな課題です。また、地産地消として、学校給食に潮来の農産物を積極的に使用するとか、観光客にも、潮来の農産物を積極的にPRしてはいかがですか。

松田市長 「道の駅」はもちろんだと、最近、潮来産米を土産品として置いてあるホテルも出てきました。学校給食のお米も、地産地消の観点から全部地元産米を使用しています。食文化も大事な教育です。また昨年は、産地競争に勝ち抜くために、潮来産米を積極的にPRさせていただき、市場における評価の底上げを図って参りました。その効果も、徐々に浸透すると思います。



兼原会長 担い手の育成ですが、市内には47名の担い手がいます。また、青年農業者で組織している「潮来アグリネットワーク」(会員19名)が日々、農業経営や地域農業振興に頑張っています。

松田市長 私も、後継者を育てるには、農業を儲かる職業にしなければなりません。本市では、認定農家への農地の集積・融資制度等を進めています。潮来市を背負って立つ若い農業者を育てる必要があります。



兼原会長 今、潮来市内には約80haの耕作放棄地があり、この耕作放棄地をどのように解消するかが大きな問題です。

松田市長 農業人口の減少などもあり、今の農家だけでは困難だと思いますが、潮来の農業に参入したいという人が現れるよう、潮来の農業を魅力あるものにしなければならぬと考えております。

兼原会長 今後、安全・安心な農産物の生産や付加価値の高い、そして何よりも、元気の農業を、兼原会長はじめとする農業委員の皆様、農業に従事される皆様と一丸となって取り組みながら、農業の振興に、さらに努めて参ります。

松田市長 本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。市長の農業への思いは熱いものを感じます。私たち農業委員会としても鋭意努力して参ります。今後とも、よろしく願います。本日は、ありがとうございました。

耕作放棄地全体調査を行いました。

農地は、国民に食料を供給するための基礎的な生産要素であるとともに、農業者にとっては極めて重要な経営基盤です。しかしながら、近年、農業者の減少・高齢化の進行により、耕作放棄地が増加し、全国では38.6万ha（2005年農業センサス）となっています。



今回行った調査は

- ①市内における耕作放棄地の状況を1筆ごとに把握し、
- ②耕作放棄地解消計画の円滑な実施に役立てるために実施したものです。

全体調査の結果は下記のとおりです。

- | | |
|-------------------------|--------|
| ①農地として直ちに利用できる土地 | 27.8ha |
| ②基盤整備等を実施して利用すべき土地 | 42.6ha |
| ③農地として復元して利用することが不可能な土地 | 9.6ha |
| 全体では80haでした。 | |

（耕作を放棄された畑）

※ 農地として復元して利用することが不可能な土地に該当する場合は、農業委員会から所有者にご連絡いたします。詳細につきましては農業委員会へ問い合わせをお願いします。

【お問合せ先】 潮来市農業委員会 ☎ 0299-63-1111（内線 271・273）

いばらき女性農業委員の 会会長就任に際し



潮来市農業委員

橋本きくい

この度はからずも私が茨城県の女性農業委員の会会長を引受けることになり、大変恐縮に存じます。83歳という年齢を数え若者に混じって意見を申上げる機会を頂き大変有りがたいことでございます。

私共は水郷という観光地で日本でも有名な場所に住んでおりますが、農民の生活は大変な時代がありました。私共の時代に土地改良を進め、優良農地の確保に努めました。

水田に行くのにサッパ船に牛を積んで行き、嫁に行く時も船で行く時代がありました。今は水路が道路に変わり人並みの生活ができる様になりました。

単作地帯ですので、減反政策に悩まされ、又、担い手の確保に大変苦労され、そして米価安と農機具等の高騰など苦労の連続です。

農業経営には今後も困難が予想されますが、日本の農業を守ること、そして外国産の野菜に頼らず国産品を振興する為、農家の皆様の先頭に立って頑張っていくつもりです。

今年もきれいに花を咲かせました。



（菜の花）

景観形成委員会

農業委員会では、いたこ道の駅北側の道路沿い約2,000㎡に遊休農地解消事業の一環として、景観形成委員会が中心となって、平成17年から、「コスモス」と「菜の花」の作付けを行っています。「コスモス」は7月から秋口、「菜の花」は12月から春先まできれいな花を咲かせます。今年も見事な花が咲きましたのでぜひご覧になって下さい



全体研修に参加して

潮来市農業委員会 橋本 秀男

今年のノーベル賞は、物理学賞の南部陽一郎・米シカゴ大名誉教授、益川敏英・京都産業大教授、小林誠・高エネルギー加速器研究機構名誉教授、化学賞の下村脩・元米ウツズホール海洋生物研究所上席研究員の4名の日本人研究者が同時に受賞しました。これは、金融危機、世界恐慌への兆し、食品偽装等様々な偽装と粉飾にまみれている昨今の世相に、一条の光が差した吉報でした。

農業も同じようなものではないでしょうか。農業は地道な努力が最後は実を結ぶものです。農業生産法人の有限会社シャリー（茨城県五霞町）と道の駅こもち（群馬県渋川市）の農業委員会全体研修会では、努力することの大切さ・柔軟な発想の大事な点を様々な視点から学ばせていただきました。今回の研修会の参加者17名も研修で学んだことで自分たちで活用出来るものについては、仕事に活かして行こうと考えていると思います。

なお、道の駅こもちは約7億円の



（向）シャリーにて）

売り上げがあり、潮来市の道の駅と同等程度の売り上げがあるというところで、たくさん種類の新鮮な商品（農産物を含む）が置いてあり、商品開発にも力を入れていると聞き、勉強になり、大変参考になりました。今後農業を続けていく上で有意義な研修会でしたので、これからも出来る限り参加して行きたいと思えます。



行方地域協議会研修会をとおして

農地部会 大津 賢美

農業委員会行方地域協議会全体研修会が、11月25日行方市「北浦公民館」において、行方市・潮来市の農業委員約50名が一堂に会し開催されました。

研修の内容は、農業委員会の上部組織である全国農業会議より、事務局長代理兼農地・組織対策部長柚木茂夫氏をお迎えしての、「今後の農政をめぐる情勢と農業委員会の役割」と題しての講演でした。

講演では、現在の農業を取巻く情勢として、WTO（農業交渉を含む）、国際的な経済状況、国内農業の担い手、農地の集積及び遊休農地の問題、地方分権、三位一体改革など幅広い分野に及びました。

これらを受け農業政策の見直しに話が進みましたが、その中でも特に農政改革と農地政策の見直しとして①農振農用地区域内の耕作放棄地解消計画

②土地（農地）持ち非農家の増加、その原因と対策

③農地制度、政策の見直し

④新たな農地政策の確立

に関する提言等のポイントを伺うこ



（研修風景）

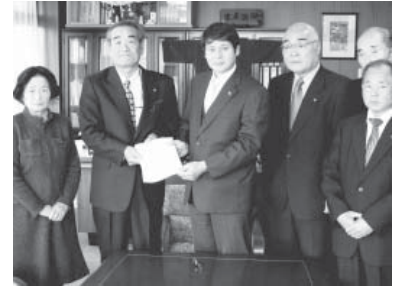
とができ、意義ある研修となりました。

又、農業委員としての性格と本来の役割についての中では、やはり優良農地の確保、農業担い手の育成・確保など、どこでも抱える大きな問題への対応が期待されており地域農業の発展を基本に、農業委員会も今後労を惜しまず活動していきたいと感じたところです。

魅力ある農業を育てるために ＜要望書を提出しました。＞

平成20年11月25日、潮来市農業委員会は、柏田千春市長と加藤政司議長へ「平成21年度潮来市農林施策に関する建議」を提出しました。

この要望書は農業委員会等に関する法律第6条第3項に基づくもので、地域の農業者の意見、要望を取りまとめ、農業者の代表である農業委員より、市長、議長へ提出するものです。



(柏田市長へ要望書を提出)

要望事項は次のとおりです。

1. 米づくりに対する政策的な支援について
2. 遊休農地の解消に向けた支援について
3. 担い手・経営政策に関して
4. 認定農業者等の育成支援について
5. 燃油、肥料価格の高騰に係る農家支援について
6. 農業委員会の運営について



(加藤議長へ要望書を提出)

10月1日から改正残土条例が施行されました。

潮来市では、近年増加している無許可で建設残土を埋立てする事案や農地への違反埋立てを規制強化するため、「潮来市土砂等による土地の埋立て等の規則に関する条例」を全面的に改正しました。農地に関係する改正点は下記のとおりです。

■農地法第4条・第5条の許可に係る埋立てについて、条例が適用されます。

これまで農地法第4条・第5条に係る埋立て（市街化調整区域内の農地の埋立て）については、適用除外とされていましたが、今回の改正により条例が適用されます。

ただし、市街化調整区域内の農地で、他法令の許可を受けている場合は適用除外となるケースがありますので、申請をする場合は事前に環境課まで問い合わせて下さい。

■土地の埋立て等の適用面積

300㎡以上が適用となりました。

■土壌検査の義務化

土砂の基準を設けて、基準に適合しない土砂による埋立て等の行為を禁止し、搬入土砂の検査義務を設けました。

■土地の埋立て等の高さについての規制

たい積の高さ2mまで。

隣地境界との段差0.5m未満（やむを得なく、かつ、安全性が認められるときは10mを限度）

■罰則

違反者には2年以下の懲役又は100万円以下の罰金

土地の埋立て等の許可関係

	適用する範囲	備 考
適用面積	面積 300㎡以上～5000㎡未満	
農地法第4条・第5条の許可に係る埋立て（農地転用許可）	適用	・農地法 ・調整区域内農地 ・他法令の許可を受けてない場合
農地改良届出による埋立て	適用除外	・建設残土での埋立て不可

【お問合せ】潮来市環境課 63-1111（内線251～253）

くわしくは、農業委員会へ ☎63-1111（内271, 273）

農業委員・認定農業者合同研修会並びに意見交換会が行われました。

平成20年11月18日農業委員会と認定農業者との合同研修会・意見交換会がおこなわれました。

合同研修会では税理士村上利夫氏による農業の青色申告についての講演が行われ、農業経営における税務対策の重要性を大変分かりやすく説明いただきました。又、研修終了後の意見交換会においては、農業委員会兼原会長を座長に様々な農業問題、特に米づくりと生産調整のかかわりなどを論点に活発な討論がなされ、大変有意義な意見交換会となりました。

潮来市認定農業者連絡協議会
会長 飯田和男



潮来市議会と農業委員会の意見交換会が行われました。

平成20年11月20日、香取市扇島開花亭において、潮来市議会と潮来市農業委員会の意見交換会が行われました。この、意見交換会は潮来市の農業の現状について議会に対し農業委員会の代表者が説明し、説明された問題についてお互いに解決策を考えて行こうということで農業委員会から議会へ申し入れたものです。

当日は進行役として農業委員会から橋本（き）委員、議会側から小沼議員の両名が選ばれ、農業問題について活発な意見交換がなされました。

初めての意見交換会でしたが、議会、農業委員会とも農業問題についてお互いに認識を深めることができました。



国民年金に加入している農業者のみなさまへ

農業者のための

公的な積立年金



しっかり積み立て! 安心して豊かな老後を! 家族みんながニコニコ笑顔!

農政の動きを知り経営また、暮らしに役立つ情報を週刊でお届けする「全国農業新聞」。

- 地方版で身近なニュースもお伝えしています。
- 毎週金曜日発行 ○購読料 月額600円(税込)
- 発行所: 全国農業会議所
- 購読申込みは潮来市農業委員会事務局まで

全国農業新聞とは

全国農業新聞は農業者の公的機関である農業委員会系統組織が農業者の立場に立って編集・発行している「農家のための情報紙」です。創刊から50年を経て、いまや文字通り「農業者必読の農政専門紙」としてご好評をいただいております。

詳しくは、農業委員会事務局またはお近くのJAへご相談ください。

◎農業委員会事務局 ☎ 63-1111

◎JAなめがた潮来 ☎ 63-1234

◎JAなめがた牛堀 ☎ 64-2411

コスモス祭りが開かれました。

コスモスの花が満開の中、10月11日（土）上戸地区上戸川コスモス団地で今年もコスモス祭りが開かれました。会場にはたくさん地元農家と観光客の方々が訪れ、色とりどりのコスモスを楽しみました。

コスモス団地の中では、JAなめがた外各農業団体やシルバー人材センターなど、様々な団体が地元物産の提供・販売を行いました。農業委員会ではコスモス祭りでは「餅」の提供を行っています。今年「つきたての餅」を提供するため、初めて会場近くの潮来ふるさと館で餅つきを行いました。餅は全部で1俵、雑煮餅ときな粉餅約500人分です。「つきたての餅」は潮来ふるさと館から約100m離れた堤防上のテントで提供しました。大変好評でテントの前には長い行列ができ餅は飛ぶようになくなりました。



(コスモス祭り会場)

「潮来あやめちゃん」の

販売を開始しました。

潮来市大規模稲作研究会（会員数42名）では平成17年から地域オリジナル米の生産に取り組んでいます。

昨までは「潮来産コシヒカリ」として販売していましたが、今年の3月新たに「潮来あやめちゃん」として商標登録しました。牛ふん堆肥の利用などの栽培基準を統一し、特別栽培農産物認証とエコファーマー認証を受けています。

「潮来あやめちゃん」はうまみを示す食味値によって75、79の「はちやき娘」、80、84の「ふつくら娘」、85以上の「箱入り娘」の3製品に分かれており、ふるい目1・9ミリの以上の大粒の美味しいお米、環境にやさしいお米として20年度は「潮来あやめちゃん」ブランド米検査数量1500俵の内、JAなめがたに650俵を出荷し、残りの俵数については会員の強い希望により、独自に販売を行うことになりました。

このことにより、潮来のブランド米として消費宣伝やPR活動を強め、消費者への美味しさの浸透と知名度アップに努めており、今年度は都内の米穀店や市内のスーパードでの販売を強化し、高い評価を得ています。

水郷潮来のブランド米である「潮来あやめちゃん」がより多くの皆さんに愛されたいと思います。



(潮来あやめちゃん)

潮来市大規模稲作研究会

会長 森内 泰男

《農業委員会委員選挙人名簿申請書の提出を》

◎今回提出して頂く選挙人名簿登録申請書は来年（平成22年）予定されている農業委員選挙の選挙資格の対象となります。

農業委員会選挙人名簿は、農家の皆様から提出して頂いた選挙人名簿登録申請書を基に毎年1月1日を基準日として作成しています。

選挙人名簿申請書は、各地区の農家班長さんを通して配布します。平成21年1月1日現在で、下記の要件を満たす方は、申請書に正しく記入し農家班長さんへ提出して下さい。

※農家班に未加入の方は1月9日までに農業委員会へ申請書の提出をお願いします。

<要件> 平成21年1月1日現在で、潮来市内に住所を有し、下記の要件を満たす満20歳以上（平成1年4月1日以前出生）の方が要件となります。

- ① 10a以上の農地を耕作する農家の経営者で、年間60日以上耕作に従事する方
- ② 10a以上の農地を耕作する農家に同居する親族又は、その配偶者で、年間60日以上耕作に従事する方

【お問合せ先】 潮来市農業委員会 ☎ 0299-63-1111（内線 271・273）

身近な話題

米粉使った商品が好評です。

道の駅いたこでは、道の駅オープン前から米どころ潮来をPRするため米粉を使用した商品開発を創案。オープンと同時に「お菓子工房「虹工房」で「どら焼き」を売り出し好評を得ている。さらに2004年からは米粉商品としてロールケーキの販売を開始、現在では夢工房の主力商品に成長している。

ロールケーキはもちりした生地が人気です。プレーン・抹茶の他に、あめ時期限定で、あめロール、ブルーベリー味も販売。贈答用としても人気があります。



(ロールケーキ)

健康食材としてまこもたけを

まこもは繊維質やタンパク質、ビタミン、ミネラル、カリウムを含み、古くから良質な天然食材として食用されてきました。道の駅いたこでは、「虹工房」でまこもモナカアイス・まこもジェラード、おふくろ亭での酢豚・きんぴら、新鮮市場「伊太郎」での生のまこもなどの販売など、様々な形で消費者の提供しています。



(まこもたけ)

農業委員会活動報告 (後期分)

8月6日	平成20年度農作業標準賃金(臨時)協議会	20日	農地部会、農政部会、広報委員会
7日	茨城県農業会議定例総会(水戸市)	27日	10月定例総会
	農業委員会会長・局長会議(水戸市)		農業委員会全体研修会(群馬県) 28日
8日	ながたがた農業協同組合合併20周年記念式典	11月8日	国民文化祭
18日	農地部会	18日	農地部会、農政部会、広報委員会
19日	「いばらき女性農業委員の会」定例総会(水戸市)	20日	農政部会並びに認定農業者合同研修会及び意見交換会
	常任会議員・女性農業委員視察研修会 20日(東京都)	20日	市議会議員並びに農業委員意見交換会
23日	水郷潮来花火大会	25日	11月定例総会、運営委員会
25日	8月定例総会		市長・市議会議長への要望書提出
9月11日	耕作放棄地調査 10月25日		行方地域協議会全体研修会(行方市)
18日	農地部会	12月2日	買ってもらえる米づくり研修会
21日	潮来産コシヒカリ「潮来あやめちゃん」披露宴	3日	茨城県選出衆・参国會議員への要請集会(東京都)
23日	潮来市戦没者慰霊祭		全国農業委員会会長代表者集会(東京都)
25日	9月定例総会	17日	農地部会、広報委員会
26日	「平成21年度国・県農業施策」の県知事への要望書提出(水戸市)	22日	潮来市水田農業推進協議会12月定例総会
29日	「全国農業新聞」・「農業者年金」普及推進 11月17日		
10月1日	行方地域協議会視察研修会(福島県) 2日		
3日	農業委員会会長・事務局長会議(水戸市)		
9日	女性農業委員等農業者年金研修会(群馬県) 10日	1月5日	御用始め
12日	コスモス祭り(餅つき)	19日	選挙人名簿受付(5日) 9日
18日	潮来市青少年のつどい	26日	1月総会

事業予定(平成21年)

編集後記

何事も信用できないという社会現象がここ数年群発するようになって、素直に信頼するのが難しくなった。数え上げたらキリがないが、強度耐震偽装から始まり、年金不信・振り込め詐欺・食料品の偽装表示、異物混入等、最後に事故米の偽装問題である。世の中が、どんどんブラックボックス化し、規制緩和の流れの中でリスクを背負って生きていかなくてはならない不信社会が農村地帯にも身近に感じられる。企業が効率と儲けだけを求めた結果であり、消費者ばかりでなく主食である米の生産者に対しても責任行為である。ただ救われるのはこれまで以上に農業問題や食料問題等がメディア等で取り上げられ世界的な食料危機を背景に国民の間に食料自給率の向上と安心、安全の地産、地消、身近な直売所の充実、食料マインレージ等の言葉で国内農業、身近な食料品を見直す動きが活発になってきたことである。

不信社会の中にあっても安心、安全という言葉を再認識し、疑心暗鬼になりがちな考えを食と農が一体となり、農業の安定化と優良農地の確保に向けた一年でありたい。(秋水)

◇広報委員会◇

委員長	辻慶壽
委員長	郡司勝美
委員長	宮内章
委員長	草野登美雄
委員長	鶴田学
委員長	吉川光一
委員長	橋本秀男